修験道にふれる 15

修験課　桑澤 俊宏

《修験道十二道具 並びに十六道具》「草鞋」（八目草鞋）

草鞋とは現代で云う靴の事であります。現代の修験道では地下足袋が一般的に用いられますが古来は草鞋でありました。行者が履く草鞋には八ヶ所の結び目が有り、これを八目草鞋と云います。

「八」には意味があり、これは仏教で云う所の、八葉蓮華を表しています。八葉蓮華は仏様が座る場所であり、これは蓮の花が泥の中で育ちやがて美しい花を咲かせる事から、迷いの世界に有っても、迷いに染まらず悟りを得る事を意味しています。

よって草鞋を履くことは自身も仏で有ると感じ、行者即仏を表しているのです。

《山伏の秘歌》「極楽の　内にはたそと　ことととえば　何もすずきし　松風のおと」

山中での休憩のひと時。額の汗を拭い、水分を口に含ませる。普段飲んでいる水とは思えないほど美味しい水を頂き、ふと今自分が登ってきた道を眺め、そこで初めて自分がどこにいるのかに気付く。遠く下に人が住んでいる里（町）が見え、あたりの景色を見渡せば草木が生い茂り、視線を上にすれば雲を近くに感じる。意識しながら呼吸をすれば美味しさを覚え、どこか懐かしい草木の匂いを感じる。耳を澄ませば、風になびく草木の音や、動植物の活動の音が山中に鳴り響く。風さえも普段感じる風とは違い、爽やかで温かい。煩悩を払拭する為に登り詰めた山中で、心の中のしこりをとってくれるような爽やかな風や、景色・味わいが山中にはある。

「極楽の内にはたそとことととえば」―極楽には一体誰がおられるのか。その問いに、「何もすずきし松風のおと」―すがすがしい松風の音が聞こえる。極楽とは仏様の世界。修験道では「山」そのものを仏様や極楽（仏様の世界）、また仏様の教えと捉えます。

山に入った者が感じた清清しさは仏様そのものであり、また極楽の音や、味わい・景色であるのです。それは決して普段の生活では感じ得ない事であります。この秘歌は山中での自分の心の爽やかさを教えてくれる秘歌であると思います。

極楽の　内にはたそと　ことととえば
何もすずきし　松風のおと

富士登拝代参守のご案内

この代参守は、高尾山から続く祈りの道を、修験者によって運ばれ、霊峰富士山頂にて法楽し、本年一年の、諸縁吉祥・諸願円満の為に、ご祈念致します。

（授与料）一体壱千円以上（代参守と碑伝合わせて）

〈申し込み方法〉

山上・御護摩受付所又は、葉書に郵便番号・住所・氏名（必ずフリガナを明記下さい。）電話番号を明記の上、左記までお申し込み下さい。

※締め切は、七月末日とし、八月以降の申し込みは、来年度分とさせて頂きます

〒一九三―八六八六
八王子市高尾町二一七七
大本山高尾山薬王院内
富士事務局

代参守

碑伝

柴燈大護摩供御壇木 特別志納ご案内

当山では毎年三月第二日曜日に、高尾山修験道による火渡り祭が、高尾山麓において盛大に執り行われます。

この勝行にあたり、ご信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて使用される、御本尊・飯縄大権現様の功徳を顕す御壇木のご志納を一本一万円にて募っております。

尚、ご志納の証として御芳名を薬王院境内に一年間掲示させて戴きます。

ご志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒課までお問い合わせ下さい。

TEL〇四二―六六一―一一一五

真言宗 智山派 前管長 寺田信秀大僧正 高尾山に来山

七月五日、真言宗智山派 総本山智積院化主第七十世 寺田信秀大僧正（写真右）が、随員と共に初夏の日差しが降り注ぐ高尾山に来山されました。

当山役員、僧侶の出迎える大玄関に進まれ、書院において、当山大山貫首（写真左）と親しく挨拶を交わされ、去る六月二十七日、四年間務めた管長の任期を無事に満了となり、退任されたことをお話されました。

その後、当山役員、僧侶が見送るなか、高尾山を下山されました。

親しくご歓談される寺田猊下と大山貫首

一文字一文字に仏様を想う 第三十四回高尾山写経大会

七月二十六日（日）第三十四回高尾山写経大会が有喜閣大広間に於いて開催され、猛暑の中、百三十名程の方が参加された。

参加者は写経前、大山御貫首及び山内の僧侶と共に般若心経を読誦し、心を込めて一心に写経されていた。

昼食の後、午後一時から八王子市内の妙薬寺住職であり、国際教養大学特任教授、國学院大学講師を務める金岡秀郎先生により、「供養とは何か」と題した講演が行われた。

金岡秀朗先生による法話「供養とは何か」